

薬学研究科カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 幅広い教養と深い専門的な知識・技能・態度、及び生涯にわたり自己研鑽に励む姿勢を礎として、医療薬学領域において斬新な研究を展開することができる。
- DP 2 医療薬学領域において、課題を発見し、深く掘り下げて研究し、解決に向けて努力することができる。
- DP 3 科学的洞察力とリーダーシップを発揮し、地域社会、国際社会、企業社会に貢献することができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3
1	専門科目	薬剤疫学特別演習	2	選択	○			本演習では、市販後の医薬品使用実態調査を通じて、薬剤疫学的手法を応用するスキルを習得する。具体的には、医薬品の安全性、有効性、経済的使用方法を科学的に検証する。これにより、医療従事者に対し、医薬品の適正使用に関するエビデンス（根拠）に基づいた情報提供を行える専門的な薬学の能力を身につけることを目指す。	◎		
2	専門科目	性差創薬科学特別演習	2	選択	○			創薬研究における性差の重要性を理解し、性周期や卵巣機能など女性特有の生理的特性を考慮した研究設計を構想する。実験動物の性別偏重、無意識のバイアス、臨床試験での女性の排除といった課題を把握し、その解決方法を提案する。演習・発表を通じて、性差医療の視点から創薬研究を捉え直し、より適切な研究設計を構想する力を養う。	◎		
3	専門科目	社会薬学特別演習	2	選択	○			臨床の医薬品の使用や医療の選択に影響を与える社会的要因、法規制度に関して、医薬品を扱う医療従事者及び患者の意識等に焦点をあてて、過去のケーススタディや公開データを利用し、課題を調査し、その解決方法を提案する。承認時審査データ、薬価算定根拠、製造販売後調査等、医薬品の開発から製造販売後までの幅広いデータを扱う。	◎		○
4	専門科目	地域医療学特別演習	2	選択	○			本演習は、地域医療が抱える問題点を文献調査等でリストアップし、特定の地域に関連するテーマを設定する。地域医療の崩壊と再生、多職種連携、在宅医療、健康増進・予防医療、福祉・介護と高齢者医療などの多角的な視点から問題を解析する。また、研究事例を通じて地域の問題点を調査し、薬剤師の役割を含む具体的な解決策を提案する。	◎		○
5	専門科目	国際薬学特別演習	2	選択	○	○		本演習は、国際学会への参加を通じて、各自の研究成果を世界に向けて発表することを主眼とする。学会では、その分野の卓越した学者と直接質疑応答を行う。これによって、自身の研究成果が国際的な視点から批判的かつ多角的に評価される機会を得る。この経験を通じ、次の研究を発展させるための新たな課題や視点を発見し、国際的な研究能力とコミュニケーション能力を飛躍的に向上させることを目的とする	◎		○
6	専門科目	医療薬学演習	2	必修	○			大学院における研究活動を遂行するために、医療薬学分野における課題を見出し、博士課程在学中に取り組むための研究計画書を作成する。課題解決に資する研究活動に取り組むことの科学的・社会的・臨床的意義について、様々な方法で表現できるようになる。D論研究の計画書を作成してプレゼンし、担当教員以外の教員からフィードバックを受ける。この過程を繰り返し、研究計画書を完成させていく。	○	○	
7	専門科目	医療薬学特論	16	必修	○	○		医療薬学領域の課題を選び、その解決に向けた適切な方法論と計画に基づき、研究の目的を叶えるために、研究・研修活動を行う。決められた期間内に一定の目標に到達するべく、計画・実行・評価のサイクルを繰り返す。その間の活動を通じて得られた結果をもとに成果報告を行い、課題に対する解決策の提案や社会への情報発信を行う。		◎	
8	専門科目	臨床薬学特論	16	必修	○	○		臨床薬学領域の課題を選び、その解決に向けた適切な方法論と計画に基づき、研究の目的を叶えるために、研究・研修活動を行う。決められた期間内に一定の目標に到達するべく、計画・実行・評価のサイクルを繰り返す。その間の活動を通じて得られた結果をもとに成果報告を行い、課題に対する解決策の提案や社会への情報発信を行う。		◎	
9	専門科目	生命薬学特論	16	必修	○	○		生命薬学領域の課題を選び、その解決に向けた適切な方法論と計画に基づき、研究の目的を叶えるために、研究・研修活動を行う。決められた期間内に一定の目標に到達するべく、計画・実行・評価のサイクルを繰り返す。その間の活動を通じて得られた結果をもとに成果報告を行い、課題に対する解決策の提案や社会への情報発信を行う。		◎	
10	専門科目	創製薬学特論	16	必修	○	○		創製薬学領域の課題を選び、その解決に向けた適切な方法論と計画に基づき、研究の目的を叶えるために、研究・研修活動を行う。決められた期間内に一定の目標に到達するべく、計画・実行・評価のサイクルを繰り返す。その間の活動を通じて得られた結果をもとに成果報告を行い、課題に対する解決策の提案や社会への情報発信を行う。		◎	
11	専門科目	医療薬学特別演習	4	必修	○			大学院博士課程当初に見出した研究課題に関して研究を実施し、得られた科学的知見を授業内で発表し、教員やほかの院生と質疑応答する。医療基礎・臨床・実務上の課題に対する解決策の提案する機会を持つことで、課題解決の有効性や有用性等について討議する。D論研究の成果を学外の研究会や専門学会において発表し、質疑応答を行う。	○	◎	
12	専門科目	大学院特別講義	2	必修				各教員および外部講師による最先端の研究成果等のレクチャーを聴講する。医療薬学・臨床薬学・生命薬学・創製薬学分野における重要な研究成果から最先端の研究成果に到るまで、価値ある研究事例に触れ、研究の背景、研究の取組方法、結果の解析法、科学的・社会的・臨床的意義について理解し、様々な研究内容を解釈できるようになる。	◎		
13	専門科目	大学院特別演習	2	必修	○			医療薬学分野における重要な研究から最先端の研究に到るまで、価値ある研究事例が報告されている学術論文を批判的に読み解き、紹介することで、研究の背景、取組方法、結果の科学的・社会的・臨床的意義について伝え、研究内容を様々な方法で正確かつ深みを持って科学的に表現し、研究の意義や将来性について討議できるようになる。	○		◎